

台湾・中央畜産会との意見交換会について（報告）

令和7年7月10日

公益財団法人日本食肉流通センター

7月9日午前、台湾の財団法人中央畜産会の蘇治芬（そ ちふん）董事長をはじめとする10名の皆様が日本食肉流通センターに来訪され、センター施設の視察と意見交換を行いました。

台湾・中央畜産会は、台湾の畜牧法に基づき台湾政府によって設立された民間組織で、畜産物の情報収集・提供、消費拡大、家畜改良等の畜産に関する様々な業務を実施する機関です。

当日は、センター出店者の株式会社コーシンを中心に視察を行い、福田工場長から牛枝肉の搬入・保管、枝肉の部分肉分割・真空パック詰めなどの説明を受けました。



センターF棟の枝肉冷蔵庫内で、和牛の枝肉について説明を受けました。身体が相当冷えるほど、熱心な質問が続きました。



枝肉を分割し真空パックされた部分肉についても、様々な質問がありました。

施設視察の後は、センターの川合 理事長から歓迎の挨拶を行い、続いて、台湾・中央畜産会の蘇 董事長からも挨拶をいただきました。

その後、センターの小林専務理事から『日本の食肉流通』について説明しました。



蘇 董事長の挨拶

質疑応答、意見交換では、センターの公益性に係る取組や和牛肉の小売価格に占める生産者受取分の割合、小売段階での返品や廃棄の状況、物流効率化の取組など多岐にわたる質問がありました。

センターから丁寧に回答するなど、活発な意見交換が行われ、限られた時間ではありましたが、大変有意義なものとなりました。



センターからの説明



蘇 董事長（左）と川合 理事長



前列左から4人目が蘇 董事長、その右が川合 理事長